

5. 文と文（言葉と言葉）のつなげ方

（1）文の順序

甲はA車を蛇行させて走らせている。VはA車の上に足をかけている。道路はアスファルトの固い路面である。A車の車高は1m以上ある。Vは肩手だけでドアミラーにしがみついている。さらに、甲はA車の速度を上げた。Vが落下し死亡する危険は極めて高い。

よって、本行為はVを死亡させる現実的危険性を有する。

【事実】を豊富に挙げてはいるもののそれぞれの文が脈絡なく並列されており事実関係が読み手に伝わらない。文をつなげる際には関連する事項をなるべく近くに置くのが原則である。

【修正1】①VはA車の上に足をかけている。②Vは肩手だけでドアミラーにしがみついている。③A車の車高は1m以上ある。④道路はアスファルトの固い路面である。⑤甲はA車を蛇行させて走らせている。⑥さらに、甲はA車の速度を上げた。⑦Vが落下し死亡する危険性は極めて高い。

よって、本行為はVを死亡させる現実的危険性を有する。

①+②=Vの情報、③+④=Vが置かれた場所の情報、⑤+⑥=運転の情報、⑦=評価、と意味のまとまりごとに【事実】を並べている。これにより読み手は容易にその場の情報をイメージすることができる。もっとも、⑦でまとめて評価をしているため個々の事実とまとめの評価との関係が分かりにくい。

【修正2】①VはA車の上に足をかけており、②肩手だけでドアミラーにしがみついているから、【A】**極めて不安定な態勢である**。③A車の車高は1m以上あり、④道路はアスファルトの固い路面であるから、【B】**A車から落下した場合に全身に強い衝撃を受け致命的な傷害を負うおそれがある**。⑤甲はA車を蛇行させて走らせており、⑥さらに、甲はA車の速度を上げたから、【C】**Vが遠心力や慣性力にゆさぶられA車から落下する危険性は極めて高い**。よって、【D】Vが落下し死亡する危険性は極めて高い

意味のまとまりごとに評価を加えることであてはめの説得力を高めている。

図で示すと以下ようになる。

{【A】(①+②の評価) + 【B】(③+④の評価) + 【C】(⑤+⑥の評価)}

→ 【D】(全体の評価)

意味のまとまりごとに文を並び替えることで多段階の評価が可能となりあてはめの中に論理が生まれる。あてはめの書き方の詳細については後述する。